

## 「ロータリーらしさ」とは

丸亀 横田 龍男

何事につけ「らしさ」というものがなくなっているように思います。たとえば、子どもがフェンスに登り、ゆすつて遊んでいます。フェンスは大きく揺れています。「危ないから下りなさい！」と声をかけると、「なんでダメなの、なんで？」と、問い返す子どもがいます。大人に注意されると素直に「ごめんなさい」と答えていた「子どもらしい」子どもはいつの間にかいなくなってしまうました。彼らはどこへ行ったのでしょうか。

あるロータリアンとこのことについて話をしていたところ、それでは「ロータリーにおける『ロータリーらしさ』とは何なのか」という話になりました。ロータリーにもロータリーらしさが必要です。ロータリーが「ロータリーらしく」なるにはロータリーの基本を守ればいいのです。具体的に言いますと、①例会時に規律を保ち、緊張感をもった例会運営をする、②むやみやたらに例会変更はしない、③例会とレクリエーションを混同してはならない、④夜間例会のお酒が入る席でも、品位のある例会運営をする、⑤例会においては、ためになる実のあるプログラムを組む、など。ロータリーにとって「当たり前なこと」ばかりです。

時には初心に帰り、現状を「四つのテスト」

に照らして、ロータリーを顧みることが必要かと思えます。

いろいろな考えが混在するのがロータリーで、「ロータリーらしさ」の解釈は、人により違うと思います。自分の考えとは違っても「そのような考えもあるのか」と受け入れるところに、ロータリーという寛容の精神がありますが、「あれっ、これはロータリーらしくないなあ」と感じた時には思い切って声を上げることでいいです。そうしないと「ロータリーらしくない」行いが常態化し、それが長年続くと正しいことになり、ロータリーが誤解を受けることになります。ロータリーはロータリーらしくあらねばなりません。

(第二六七〇地区 香川県 建築設計)